

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070702685		
法人名	株)プロデュース		
事業所名	グループホーム きらめき		
所在地	福岡県北九州市八幡西区本城東1丁目11-27		
自己評価作成日	平成23年10月28日	評価結果確定日	平成23年12月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリズン
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成23年12月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「愛・成長・謙虚と感謝で地域貢献」と経営理念を掲げ1日1日その瞬間を大切に頑張っています。認知症高齢者が私たちと何ら変わらない生活を送れる様毎日支援させていただき残された短い人生を毎日笑って暮らし、息を引き取る寸前まで普段の生活の声・音・匂い・空気を感じて頂けるよう価値の高い専門職を目指し日々努力しております。職員同士の仲が良く「ありがとう」メッセージを送り合いチームワークがあり愛のあふれたホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近年ホーム理念を具現化する経営方針会議を、家族や地域の民生委員等の運営推進会議のメンバー、入居しているビルの方々等の参加で開催している。今春も年度方針が発表され、毎日の朝礼で理念の唱和が継続し、「ありがとう」を記載した木が掲げられ、PDCAを意識したケアで入居者が自由に発言でき、身体の不調や不安等を職員に気軽に話せる環境を作っている。自主運営の家族会では家族間の交流が深まり、運営推進会議に参加する家族や地域の方々から職員の研修報告に驚嘆されたり、講師の申し出があったり、家族の入居予約があったりしている。今後は地域から要望があった事務所を開放したコミュニティづくりが期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/事業所名 **グループホーム きらめき 2F**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム理念「グループホームきらめきは、喜んで楽しんで明るく快適な生活を送れるホームをめざします」 経営理念「愛・成長・謙虚と感謝で地域貢献」	ケアの原点である理念を毎朝唱和し、職員間で声を掛け合い、具現化に励んでいる。4月には経営方針会議をビルの1階のイベント会場で開催し、関係者や地域にアピールしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	日ごろから地域の市場に買物に行きコミュニケーションをとっている。地域の夏祭りや保育園・学童保育のイベントに参加させて貰っている。肉屋・八百屋・魚屋は、毎日配達に来て下さる。地域の区長が定期的に情報を持ってきて下さる。民生委員とのコミュニケーションもとれている。	地域との交流が継続し、なかでも地域の井戸端会議の場になっている八百屋の店主の理解や協力に感謝している。地域から要望もあり、事務所を開放したコミュニティづくりが進行している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の高齢者が事務所に介護の相談に来所されたり利用者様と散歩中地域の高齢者とコミュニケーションをとり施設での生活等話す機会が有る。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年2月4月6月7月10月(12月予定)と開催し消防士の方からの救命救急の講義をしていただいた。地域の業者・住民・家族会の意見を聞き改善出来る所から取り組んでいる。(地域の方からの話で今年は、事務所をコミュニティの場として開放する事やご家族より土日の方が参加しやすいとの意見が有りなるべく土日に行っている)	会議を週末に開催しているため、行政職員の参加が少ないが、会議録で報告している。全家族に会議を案内するため、家族の参加も多く、職員の研修報告に驚嘆される家族や講師を申し出る家族、家族の入居を予約した地域代表者もある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	研修参加やケースワーカーと面会や情報交換を行っている。運営推進会議の際必ず包括支援センターに案内を出している。弊社は、土日に運営推進会議を行うことが多いので包括支援センターの参加率が少ないので残念である。参加率20%。欠席された時は、報告書を提出している。権利擁護を利用始め現在利用中。月に2回相談員が訪問している。	運営推進会議の内容を報告し、情報交換や連携に努めている。介護相談員の来所もあり、情報を交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間帯のみ玄関の施錠で日中は解放している。日ごろから言葉の拘束や身体拘束について声かけし利用者本意で自由に暮らせるよう援助している。玄関にカメラとアラームを設置し職員が気づけるようにしている。毎月ミーティングでも再確認している。 外出が不可能な時でも隣接された事務所までお散歩がてら来ていただき雑談の場を創っている。研修に参加し会議で報告し周知している。	医療機関から入居した利用者もあるが、入院先の訪問で身体拘束を目の当たりにしたこともあり、拘束しないケアを実践している。ビル2・3階での開所で、エレベーターや階段で外部に出る構造のため、入居者の動向は把握しやすい。入居者の状況に応じて、声かけしたり外出に同行したりしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に意識してホーム内で見過ごす事が無いようスタッフに声かけている。気になった事は即伝えている。声かけ一つ一つ注意し合いミーティングでも再確認している。研修に参加し会議で報告し周知している。休憩時間・有給休暇の完全消化を目標として過労にならないシフト組みに努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用し毎月関わらせて頂いている。利用されている方も毎月来客の意識が有り楽しみにされている。	日常生活自立支援制度を活用している入居者があり、実際に活用されている様子に職員もまた、権利擁護に関する制度に対する知識を深めるきっかけとなっている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際必ず説明し契約を行っている。その際センター方式を利用し過去の生活状況を十分聞き取りし意見や要望を聞いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会が有り会で意見をもとめて報告を頂き改善出来るところから改善している。(外出の機会を増やしてほしいや妻と食事がしたいとプライベートの時間を作っている。御家族側から率先し家族会を開催してくれた。改善提案もさることながら家族同士の繋がりも非常に強くなった。	家族会は、自主的な会議運営のため意見も出やすく、家族間の交流も深まっている。家族の意見に配慮した管理者の提案で、入居者の夫だけの花見を近隣で開催している。また、入居者の日々の暮らしを掲載したきらめきだよりを復活し、家族が意見を表出しやすくしている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	面談や報告書などで提案を聴き改善の必要性の有る所から改善している。アンケート調査を実施したことで職員の率直な意見が聞けた。さらに意見の出しやすい社風づくりを目指したい。	各委員会での役割分担やアンケート、定期的なミーティング等で職員の意向や意見が表出しやすい組織づくりがある。社員研修でプライベートな悩みが伺える場合も多く、運営者は随時対応をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年の年度方針や目標をはっきり伝え権限移譲と責任と意思決定を伝え取り組んでいる。人事考課制度を取り入れ各職員が目標を持って働けるよう取り組んでいる。人事考課も5年目を迎えたので更に質の高い評価制度の策定をする。OJT・OFFJTを使用しキャリアアップを目指している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	20代～70代年齢層も幅広く男女問わず職員がおり個々の能力を發揮しお互いが理解してチームワークを大切にに取り組んでいる。 職員同士の良いところに着目し個人の強みを伸ばしながら勤務できるよう協力しあっている。	70歳定年ではあるが、職員の要望に応じて延長している。パート職員と社員職員を区別せず、情報を共有できるように、会議や研修会参加に配慮している。資格を取得しキャリアアップした職員や、社員教育で自己開示し、自らの悩みと向き合う職員もあり、自己実現を支援している。そして、年1回研鑽した職員を表彰している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	学んだ事を生かし職員に面談時伝えている。実際に弊社職員は徹底して人権尊重できている。特に「交流分析」を皆で学習しながら相手を受け入れる取り組みをしている。	行政主催の人権研修に参加したり、社員教育で職員自身が人権に気づく機会を設けている。ありがとう委員会から「ありがとうの木」を豊かに茂らせようと提案され、職員同士で、入居者と職員で、また関わる方々と「ありがとう」と言葉を交わす日々を送っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修(理念と経営の勉強会)や職員の能力に合わせ社外研修で学んできた事を他職員に報告しお互い学んでいる。 キャリアプランを作成中		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	徘徊ネットワーク会員、グループホーム経営者や管理者と情報交換をしている。グループホーム協議会に入会しその中で役を引き受け勉強会の中で事例報告・問題提起等も行い研修や情報交換を行っている。今後他社のグループホーム職員を集めての勉強会を行っていきたい。経営革新認定を受けている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に施設訪問や家庭訪問を行い本人・家族の困っている事や要望を聴き安心出来るよう努めている。 センター方式の活用が大変信頼関係に結びついている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に施設訪問や家庭訪問を行い本人・家族の困っている事や要望を聴き安心出来るよう努めている。 センター方式を活用。 特に初期段階では御家族とのコミュニケーションを多く持つように心がけている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に施設訪問や家庭訪問を行い本人・家族の困っている事や要望を聴き安心出来るよう努めている。本人・家族の状況に合わせ支援している。 センター方式活用から生まれ育って生きてきた背景をもとにケアするようにしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事を日々気付き協力して頂いている。 必ず感謝の気持ちと出来た事の喜びを共感し自信を持てるよう支援している。 相手が悲しんでおられるときは一緒に悲しみ怒っている時は一緒に怒り喜びは一緒に喜べる関係を目指している。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近況を報告・相談しよりよいケアが出来るよう信頼関係を築いている。御家族が来られた時は家族水入らずの時間も配慮している。必要に応じては、十分理解の上家族にも介護をして貰っている。現在毎週お母様の入浴介助に来て下さる娘様もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後も自宅の御近所の方やお友達が気軽に面会に来られている。 その際一緒に食事をしていただいたり今までの関係が途切れないようにまた来やすい雰囲気作りを心掛けている。	妻の入居が多く、在宅で暮らす夫たちの「お父さんの花見」を近隣で行い、関係の継続を支援している。ホーム手作りの弁当に家庭の味を思い出したと好評であった。事務所を地域の方々が無難に立ち寄れるコミュニティづくりが進行している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室を行き来し御利用者様同士で話をされていたりそっと手を握りスキンシップをとっている光景を見かける。 他の利用者の居室で井戸端会議などほほえましい光景あり。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された家族様もイベントの時やそれ以外でも遊びに来れらり遊びに行ったりと関係は続いている。 毎年餅つき家族会に参加してくれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御利用者様本人の意向は必ずお聴きしている。困難な場合は家族に情報を頂き相談し御本人の望まれるであろう生活に近づけている。 「必ず洗濯物は自分の居室に干したい」ご主人が高齢で面会に来れない方をご自宅で数時間過ごしてもらおうなどの要望には応えている。	センター方式で職歴・生活歴を把握している。 24時間生活シートを活用し、その折々の入居者の気分や願い・支援してほしいことを記載している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際御家族に生活歴を記入して頂き情報を収集している。センター方式活用は生まれ育った環境や生き方等ケアする上では、とても重要な部分なので入居後家族との信頼関係が出来てから聴ける話もあり入居の際だけでなく意識してスタッフで共有している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のその日の心身の状況を観察し把握し自由で快適に過ごせるよう努めている。 今年度のケア方針を「ゆとりある介護」と決め目標と重要管理点により一人一人を見つめ残存能力に気づきPDCAを回し入居者様に寄り添うケアを行っている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	特に変わりの無い方は3ヶ月に1度カンファレンスを行い計画に反映している。 介護職員がカンファレンスの際細かく意見を出す仕組み作りをしている。 ユニット内MT→全体MT→ケアプラン作成と3段階に分けチームで計画を作っている。	サービス担当者会議には家族の参加があり、本人、家族の意向を反映したケアプランとなっている。現在のような3段階に分けてのケアプラン作成のシステムに移行して、一年が経過し、職員全員で課題が共有できているため、解決への時間が短縮されたそうである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	御家族へ状況変化は書面や電話で報告し相談の後計画に反映させケアを行っている。 御家族に記録を見て貰う様勧めている。 ご家族によっては、介護記録のコピーをお渡ししている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の御家族の状況やご本人の状況に合わせてサービスを行っている。 例えば御主人が入院や体調不良で面会に来れない時などこちらからお連れしゆっくりと時間を過ごして貰う等。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域に商店が多くあり散歩の途中に寄ったり買物に行く事も有りホームのお元気な方の顔は覚えて下さっている。 一人で歩いている姿を観て近所のお店の方が声をかけて下さる。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望により毎週往診に来ていただき健康チェックできている。 必要に応じて緊急往診や緊急対応の指示・協力を受けている。	内科・精神科・歯科等の協力医療機関の訪問診療を支援している。CTや検査などの特別な検査の受診は家族に同行をお願いしているが、職員も同行し、待ち時間を活用して家族とじっくり話すこともある。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に3日看護師が来て健康チェックし把握できている。 変化の有る方は申し送りを徹底し支援している。 その他介護職員の中に2名の看護師が居る為他のスタッフも心強い。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時ホームでの生活情報を提供し病状安定したら早期退院をお願いしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	昨年初めてホームでの看取りを経験を活かして御家族・医師と密に情報交換し状態変化有る時は、その都度意向を確認し満足して頂ける終末期を迎えられる様支援している。	昨今看取った入居者は日々のケアについて、家族を交えて話し合ったことも多く、終末期の1ヶ月は家族と職員が一丸となって関わっている。家族も予期悲嘆を経験した看取りであった。全員が亡くなられた顔があまりにも安らかなことに驚嘆し、改めて既往症の影響を痛感している。	今回の看取りを振り返り、私たち全員が迎える「死」について、死生観やターミナルケアの研修実施も期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	起こりうる事故や急変時は再度職員に伝え対応の手順を再確認している。 AEDを設置後消防士を呼んで救命救急の講義を受けた。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防の方指導いただき火災訓練を行っている。地域に消防団の方が住んであり訓練も参加してもらっている。将来は、地域のかたを巻き込んで一緒に消防演習も行っていきたい。	運営推進会議でビルの2・3階に居室があることから、家族や地域の方々に情報や意見を伺っている。避難場所や防災グッズについても意見があった。ご飯や麺類、水、缶詰等を備蓄している。	近隣にテナントもあることから、運営推進会議を通じて、地域防災訓練の提案をされてはいかがでしょうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせ声かけをしている。 赤ちゃん言葉や上からの命令形な言葉は絶対に使わないように指導している。	センター方式の活用で把握した職歴・生活歴を考慮した声かけや対応を実践している。 ゆったりとした会話や声かけに安心した表情の入居者が多い。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御利用者が選びやすいよう二者択一の声かけを行い行動などでシグナルを見落とさない様努めている。 おやつ時飲み物や行事の参加や外出も自己決定出来るよう声かけしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室にて読書を好まれる方廊下ソファでおしゃべりしたい方など個々その時の状態に合わせて自由に快適に過ごせるよう努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御本人の希望に合わせて行っている。 外出時や入浴時洋服を一緒に選び着るものを決めている。 理美容室に行きパーマやカラーをされる支援をしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	会話の中で食べたいもの等有る時は献立に反映している。 個々のその時の状況に合わせて出来る事を共に行っている。 時折外食しその時食べたいものを食べていただいている。	食材の皮むきや、下げ膳をする入居者もある。各ユニットとも入居者の状況に応じてテーブルを分けているが、全入居者がそれぞれのペースで食事をしているため、完食が多い。 全職員が同じ食事を摂りながら、皮むきのお礼やメニューを話題にししながら、見守りや介助をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事量や水分量をチェックし状態を把握し対応している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。 困難な時は歯科医の協力を得ている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表にてパターンを把握しトイレで排泄が出来るよう援助している。 入院されていた方が入居されオムツの排泄からトイレでの排泄が出来る様支援できた。	排泄介助の際にはプライバシーに配慮した誘導や声かけが行われている。あまり神経質にならずにできるだけトイレでの排泄を支援している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量や運動と毎朝のヨーグルトバナナや麦ご飯等工夫し自然排便が出来るよう努めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	1対1の援助でゆっくり入浴して頂いている。 臨機応変希望有る時は対応している。	各ユニットに家庭用の浴槽が設置され、時には入居者同士が誘い合っ一緒に入られることもある。職員による入浴支援が難しく、家族に入浴支援をお願いしたこともあるが、家族と十分に話し合っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	前日の睡眠時間や状態を把握し対応している。 病状や年齢・習慣によって日中でもベットでゆっくり休んで頂いている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一覧表や薬手帳で確認できるようにしている。 新しく処方がある時は必ず申し送っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	御家族の協力もあるが御本人の嗜好も考慮し支援している。 趣味であった競艇や地元の酒屋で角打ち・家族の希望で一泊旅行等対応できる事は行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常天気の良い日は散歩に出かけ気候が良くなると希望を聴き外出している。 また職員と銀行や郵便局などにも一緒に外出し住民の方とのコミュニケーションも心がけている。	商店街の八百屋さんやご近所さんのコミュニティになっており、買い物途中、井戸端会議に参加されることもある。また、息子さんが迎えに来られ、妻が入院先に面会にくるのを楽しみにしている夫もいる。1階にホーム事務所があり、散歩がてら立ち寄りしている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御本人と御家族の希望があれば可能である。 買物の時にお渡しする事もある。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人と御家族の希望があればいつでも電話できる体制はある。 毎日朝・昼娘さんと電話している方もいる。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭が無いし玄関が狭い為リビング等に季節を感じられるよう花や飾りをし工夫している。	1階の玄関には2・3階へのエレベーター前に椅子が設置されている。2・3階のユニットにも玄関が設けられ、下駄箱周辺を飾りつけている。共用空間には食卓やイスが設置され、食後皆のそばのソファで横になる入居者の姿もあった。既存のビルのため以前使用されていた非常出口の標識をそのまま活用するなど、空間の工夫が感じられる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やリビングにソファを設置し自由に過ごせる空間が有る。又気の合う御利用者様は居室を歩き来し過ごしている事もある。時には、他ユニットに遊びに行き気分転換を行っている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの筆筒や鏡台写真や仏壇等も持って来られ御本人が心地よく過ごせるよう努めている。	各居室入口は小さめの暖簾が掛けられ、大きな窓が居室を明るくしている。ベットばかりでなく、布団が使えるようにカーペット敷きにした居室もある。馴染みの家具等の持ち込みがあり、個性的な居室づくりを支援している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に合わせその時の状況を把握し過剰な介護はせず支援している。リスクはあるが、出来る事の発見やそっと見守る事や出来るように支援する事を支援している。例えば、下膳や冷蔵庫から飲み物を出しご自分で注ぎ準備してもらう事や掃除機かけ等		